

児童発達支援・放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 令和4年 2月 1日

事業所名：こすもす

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	<ul style="list-style-type: none"> 指定基準以上の指導訓練室の確保あり 指導訓練室以外にも相談室や保護者室、屋外遊技場を設けている 	はい:97 いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:7%	現状評価の継続
	2 職員の適切な配置	<ul style="list-style-type: none"> 基準内の職員配置 	はい:97% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:3%	現状評価の継続
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	<ul style="list-style-type: none"> 室内全室バリアフリー化 車椅子用トイレ配置 玄関前にスロープあり 一日の流れを分かりやすいように視覚から理解できるスケジュールボード使用 スケジュールカードは持ち運びできるようにサイズ変更も行うことで個別に応じて外出先でも使用できるようになっている 傘を忘れないようなカードやスタート位置の分かる足形などのカードを使用している 利用者の様子に合わせてカードや視覚提示を追加している 	はい:97% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:3%	現状評価の継続
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	<ul style="list-style-type: none"> 毎日清掃・消毒実施 定期的な安全点検・設備点検 定期的に玩具や本の入れ替え 	はい:97% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:3%	現状評価の継続
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	人事評価制度の活用(年2回)		<ul style="list-style-type: none"> 定期的な会議や業務改善に対する振り返り・意見交換を継続 意見の言いやすい職場環境を全職員で心がけている
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	外部評価を現在未実施		外部評価の実施を検討し、より良いサービスの質の向上を目指す
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に研修案内の実施 コロナ禍によりZOOM等のオンライン実習が増え、昨年度に比べ中止になるケースは減り参加することができた 内部研修の実施 		<ul style="list-style-type: none"> 休日や勤務時間外実施のオンライン研修がある為、勤務体制の調整を行っていく 内部研修の開催を増やしていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス等利用計画とアセスメント用紙を用いて個別支援計画作成を行っている ・アセスメント用紙の記入は利用者の代理として保護者に記入を依頼。記載された内容と日々の利用者の姿や保護者との育児相談などをふまえ、アセスメント用紙に記入しづらい、文章にしづらい内容を聞き取り調査で行い、利用者のニーズや課題を分析している。 ・相談支援事業所や併用事業所、学校関係との情報交換もニーズや課題を分析している ・利用者本人に行える場合は利用者と保護者と共に記入を依頼している 	はい:97% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:3%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・アセスメント用紙の記入内容をより理解を深めるために聞き取りで内容をより深めたり、保護者の考えや思いもふまえていけるようにしていく
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・個別活動と集団活動の目標を利用者に応じて設定している ・専門職と話し合った内容を集団活動の中で取り入れるようにしている 		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や相談支援事業所の意見も合わせて希望を確認していく
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	個別支援計画に記載している		<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・利用計画をもとに本園で実施できる内容と説明を行っていく
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿った支援の実施に取り組んでいる ・支援計画会議の実施とモニタリング会議により支援の見直しを行っている 	はい:97% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:3%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・支援計画会議、モニタリング会議以外の時にも支援内容に沿っているかどうか定期的な見直しを考えていく
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の活動内容が重ならないように話し合っている ・利用者の活動後の姿を職員全体で振り返りを行っている。その際、利用者個々の目標や課題を達成に近づける為のステップアップとなる活動を取り入れるようにしている ・様々な活動や季節に応じた活動を取り入れている。また、同じ活動からは、繰り返し行うことで利用者が安心したり、より達成感を感じることができるようにも心がけている 	はい:100% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:0%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・年に一度アンケートを通じて保護者からの希望を調査したり、今後の利用者の姿を想定して将来的なプログラム案も検討していく(例:就労支援体験、就労施設訪問等) ・利用者家族を対象に研修会や勉強会、就労支援などの見学会などを検討していく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供 t (続き)	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	<ul style="list-style-type: none"> ・主に平日の開所となり、祝日はお休みである。 ・土曜日の開所は児童発達、放課後等デイ共に月に1回程度開所している ・活動内容によっては時間の変更を行った 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援の土曜日開所のニーズは高い為、できる限りのニーズ対応を検討していく ・放課後等デイサービスの長期休暇時は時間変更が無い為、長時間のニーズが高い。児童発達支援事業との多機能型の為、変更することは難しいが、活動内容が満足してもらおうようにしていく
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・固定化している活動と、月ごとで内容が変わる活動がある ・固定化された活動を通して利用者の成長や変化を評価していく。 ・毎月変わる活動は利用者の興味関心や課題に合うように職員間で話し合っている ・活動内容は「静と動の組み合わせ」が取り入れるようにし、子どもの興味関心や経験値が高まるようにしている 	はい:100% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:0%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・利用者の課題を通して継続的な活動も必要になってきたと感じている。2~3カ月かけて行う活動や1カ月に1回の定期的な活動などを通して成長の変化を保護者や職員も感じることができるような案も検討していく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・支援活動前に内容や諸注意、利用者個々の目的を活動を全職員が確認している ・送迎サービス実施等の関係で不在だった職員も情報共有を行い、全体で共有している ・急な内容の変更の場合もその都度職員で声をかけ合い、流れがスムーズに進むようにしている 		現状評価の継続
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	<ul style="list-style-type: none"> ・支援終了後に各職員で気づいた点や改善点を話し合い、次回の活動へつなげるようにしている ・送迎サービスの関係により全職員の話し合いができない場合も、複数人の職員で話し合うようにし、出た意見は他職員にも共有するようにしている ・専門職(言語聴覚士、音楽療法士)の活動後は活動による報告や集団内の関わり方や目標について指導を受けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・話し合いの内容を用紙に残し、当日以外にも確認ができるようにすることで、前回との比較ができるようにしていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ・活動終了後に各利用者への日々の記録に記載。記録内容はできたことや取り組む姿勢、些細な体調の変化や機嫌等を記載している。利用者の気持ちへの理解や行動の理由に気づくことができるようにしている。また、どのような関わりでどのような結果だったかを記載することを心がけている ・記録に記載する職員だけの意見にならないように、活動する姿を職員間で話し合った内容を記載するようにしている。 ・保護者や学校からの引継ぎ内容や帳面に記載されていた内容等を記載し、自宅や学校(園)の様子や保護者のニーズ、子育てについての悩みにも寄り添い把握できるようにしている ・相談支援事業所からのモニタリング実施日や内容を記録し、相談支援との共有についても記載している 	/	現状評価の継続
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なモニタリングの実施(最低6か月に1回) ・必要に応じて相談支援事業所や他事業所との情報交換を行っている ・必要に応じた支援者会議の実施 ・相談支援事業所とのモニタリング実施については記録に記載欄を追加(日時、内容を記載) 	/	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・利用者の個々に応じて時期が異なる為、評価時期を表んまとめて分かりやすくするようにしていく。
1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者を中心に参画 ・上記の者が参画できない場合は療育支援の場に入っている職員が参画するようにし、欠席しないように心がけている 	/	現状評価の継続
2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて学校、病院、各支援事業所等と支援者会日を通じて情報共有している 	/	現状評価の継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	・支援者会議や保護者との話し合いを通じて確認		・現状評価の継続 ・必要に応じて医療機関へ情報共有や対応を確認するようにしていく
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・主に相談支援事業所発信で支援者会議を行うことが多い。保護者の悩みや必要に応じて本園より各機関に情報共有の依頼や支援者会議の依頼を行っている ・各機関から本園に見学に来てもらい、利用者の様子を行うこともある(保護者の承諾あり) ・電話で各機関と支援の内容、取り組みについて情報共有を行う(保護者の承諾あり) ・特に年中・年長児や保育所などに入園を検討している保護者については、保育園、小学校入学(入園)に向けての情報共有を円滑に行えるよう、サポートブックの作成を促している ・本園の放課後等デイサービスの説明会や見学会を実施(コロナ禍により各家庭へ対応)		・現状評価の継続 ・サポートブックの作成については、インターネットで掲載されているものやフォーマットも一緒に案内しているが、作成が難しいと感じている保護者も多い為、作成にむけた勉強会などを設定していくことも検討する
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	・卒業する利用者へは支援内容などについて支援計画を障害福祉サービス事業所等に配布 ・支援者会議に参加し情報共有を行う		・現状評価の継続 ・障害福祉サービスの必要な場合、本人が利用している日に本園の活動時の姿を見学する等も検討していく ・就労移行支援や就労支援、生活介護等の障害福祉サービス事業所について概要や、活動内容を理解することを職員全体で努めていく
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・専門機関との連携については児童発達支援管理責任者は行うことはあった ・研修の受講の促進については、定期的に行った		・コロナウイルス感染防止の為、研修開催は主にオンライン研修になることが予想される。インターネット配信の環境を整えていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度はコロナ禍で難しいことが多かった ・図書館のおはなしの会に参加している人数によっては参加の有無を検討し感染防止を考えて参加した ・法人内の保育園の園児との交流は難しかったが、保育園の建物前で互いに挨拶を交わすことは定期的に行った ・長期休暇中にきょうだい支援の場を設定し、障がいの無い子どもと活動する機会を提供した ・事業計画内では他事業所や保育園の園児との交流を計画している 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい:36% ・いいえ:16% ・どちらともいえない:23% ・分からない:25% ・コロナ禍では難しいと思う ・コロナ禍で無くなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍では現状評価の継続 ・コロナ禍に応じた交流方法を検討していく ・コロナ禍が落ち着いた場合は企画内容の実施を行っていく
8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館や地域の公園、神社、スーパー等に出かけていくことはあるが、招待することはなかった ・地域の中学校からのトライやるウィークの受け入れを行った(コロナ禍により、管理者にインタビュー形式で本園の活動や見学を行った) ・作品展や法人内イベントはコロナ禍で中止 ・ペアレントプログラムの開催場所で地域の公民館を借りた。その際に自治会長さんや民生委員の方に本園の目的や場所などを説明することができた 	/	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・本園に招待する活動を企画する(作品展や園庭開放などの企画) ・今年度実施予定であった他事業所や地域の保育園、幼稚園との交流を通して招待していく
1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に保護者と一緒に読み合わせ確認を行っている ・利用料については初めての支払い時に利用料を説明するようにしている ・不明な場合は契約後も説明を行っている(契約変更時も同様) 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい:100% ・いいえ:0% ・どちらともいえない:0% ・分からない:0% 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続
2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と一緒に計画書を読み、内容を説明し確認後に押印を依頼している 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい:100% ・いいえ:0% ・どちらともいえない:0% ・分からない:0% 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援事業の部でペアレントプログラムを実施(9月～3月の希望者) ・週に一度の親子療育日を設け親子で活動参加をする中で関わり方を一緒に考える機会を設けている(児童発達支援事業のみ) ・送迎時の引継ぎやお帳面を通して保護者の子育てに対する姿勢を応援し、心のサポートに繋がるようにしている ・参加対象が保護者になっている研修や講演会の案内 	はい:82% いいえ:4% どちらともいえない:7% 分からない:7%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・全職員でペアレントプログラム講座の開催を目指す ・放課後等デイサービス利用者を対象にしたペアレントプログラムの実施の企画や成人期に向けた研修、講演会の案内を意識して行う
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・利用前後の引継ぎ、お帳面、個人記録などを通して利用者の姿や状況を知らせている。また、自宅や園、学校等の様子を伺ったり、引継ぎを通して共通理解を図っている ・特に登園、降園時の際に保護者と話す時間はできるだけ利用者の皆さんが均等になるように心がけて対応している 	はい:100% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:0%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の維持 ・お帳面や記録等は文章で伝わりづらい時もある為、その場合は口頭や電話を通してより詳しく説明できるようにしていく
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・相談依頼があったその日のうちに話を伺うように対応している ・必要に応じて保護者と1対1で相談支援を実施できるような環境を整えている ・相談内容が職員1人では判断することが難しい場合は他職員と話し合った後に保護者へ助言を行うようにしている ・相談内容が本園だけで助言することが難しい場合は保護者の承諾後に相談支援事業所や各関係機関に情報共有を行うようにしている 	はい:93% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:7%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・今後の様々な相談内容を想定してケースに応じた関係機関を調べたり、保護者に説明や相談先の紹介ができるように情報収取を行っていく
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	<ul style="list-style-type: none"> ・父母の会や保護者会の実施は現在なし ・親子療育日や帰園までの時間を自由に使用できるように保護者室を開放し団欒しやすい環境を設定している 	はい:50% いいえ:14% どちらともいえない:12% 分からない:24%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会の立ち上げ要望が数件あった為、保護者のニーズや保護者会の目的などを明確化し、活動支援がどのようなものができるか検討していく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者室に苦情・相談ボックスを配置 ・苦情や相談がある場合の流れは計約時に重要事項説明書を通して説明している ・苦情時は管理者に報告し速やかに対応すると共に法人内にも報告している 	はい:50% いいえ:15% どちらともいえない:3% 分からない:32%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・今年度の苦情相談内容はなかったが、あった場合にどのような対応や解決策になったかの報告を保護者の見やすい玄関に掲示するようにしていく
8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードやタイムスケジュールの掲示を視覚的に行っている ・タイマーを設けたり、歌を通して場面や時間の切り替えを聴覚的に知らせている ・本人が選択する時間を大切に、本人の意思表示が出るように質問したり、環境を設定している ・保護者より要望がある方には締め切り日や持ち物内容にマーカーで色付けして分かりやすいように知らせている 	はい:93% いいえ:0% どちらともいえない:4% 分からない:3%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・保護者からの要望により、手紙や予定表などのフォントや文字の大きさに配慮できることを知らせていく
9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の予定表を全利用者へ配布 ・通信誌を通じて活動概要や福祉制度、子ども達の日々の様子を配布 ・HPの定期的な更新 ・活動時の姿をカメラで撮影し写真販売を通して活動時の姿や取り組みを発信 	はい:97% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:3%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・連絡体制について、電話や手紙が主として行っているが、緊急時の対応や一括送信などができるようにメールを検討していく
10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に個人情報法について掲示 ・契約時に個人情報や対応について説明を行っている ・個人情報の取り扱い(作品の掲示内容やHPに写真の掲載可否等)を調査、同意書を得ている ・職員の研修などで事例発表を行う際はその都度、個人情報の取り扱い、発表内容の説明と同意を得ている 	はい:100% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:0%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを策定し、職員に周知を行っている ・避難先や警報発令時の対応は玄関に掲示、定期的に保護者に対応を配布 ・保護者室に避難確保計画(洪水編)の作成した冊子を配置 ・流行時に応じた感染症の対応を掲示、各保護者へ配布 	はい:97% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:3%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・防犯訓練の実施回数を増やす(対応策を職員と定期的に確認する) ・消火訓練の実施を毎年決めて行う
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容に取り入れ実施 ・今年度は避難先まで避難する内容を実施し、避難先である保育園や公民館へ行った。コロナ禍により保育所内や館内に入ることは中止したが、園長先生や館長さんに挨拶をすることで避難先とも避難の流れを確認することができた 	はい:93% いいえ:0% どちらともいえない:4% 分からない:3%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・今後も様々な危険を想定し、避難訓練の実施や災害、防災の理解を増やしていく (例:利用者と一緒に消火訓練の流れを行う、防災施設に行き、見て知る、学ぶことを行う)
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍の関係により研修未受講 ・法人内の児童家庭支援センターより、虐待を発見、又は発生した場合の対応や流れの指導を受けた 		<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の研修を受講する ・虐待研修の内容の中に保護者支援として考え、保護者対応により、虐待を未然に防ぐことも繋げていく ・定期的に児童家庭支援センターの説明を受け、虐待防止の対応や発生時の流れを確認していく
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	<ul style="list-style-type: none"> ・現段階では身体拘束を行っていない ・契約書内(第4条の2)に記載 		<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・強度行動障害研修の検討 ・利用者の中で今後危険や周囲の危険が予測される場合には保護者に十分説明や対応の確認を行い、話し合い後に個別支援計画に記載後保護者の同意を得るようにしていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のアレルギー反応の症状を利用者全体に周知していると共に医師の指示書(エピペンの使い方)を全職員が確認している ・活動内容や給食の献立に応じて保護者や調理師、管理栄養士と確認している(献立表やクッキングのレシピを事前に知らせている) 	/	・現状評価の継続
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・事例集の作成 ・ヒヤリハット事案が出た場合は会議で話し合い、職員が周知できるようにしている 	/	・現状評価の継続